
運命の歯車

r y o

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命の齒車

【Nコード】

N8397Z

【作者名】

ryo

【あらすじ】

『領姫よりようひめく』。それは、全てのものが知っている。『領姫の騎士団よりようひめのきしだんく』。それは、『領姫』が創ったモノ。守りたいものを守るために。集うモノは、『領姫』を守りたいと願うもの。「領？あいつは無敵だ…。絶対に、何があるかと手をだしてはいけない…。この世界で…。いや、たとえばどこであるかと、生きたいとねがうのならば。」「領？あの子に手を出すというのならば…。私が赦さない…。」

第一章 逢瀬 第一話 男

「とうとう、か…。」

男はそつと溜め息をついた。

「我が子に継がせるか、滅びるか…。あの子に『運命の女神』うんめいのめがみく』の座を継がせるだけでも重荷になるだろうに…！」

奇怪な事を口走る。

よく見ると男の服装は、見慣れたものではなかった。
着物のようなくつたりしたものの上に長羽織に似たものを着ている。
足は何も履いておらず、裸足のままだ。

「それも全てアレのせい…！」

その時だった。

辺り一帯の空気が変わる。

たくさんのモノ達の感情が渦となって、押し寄せてくる。

男は、呟いた。

「…女神が来た。」

男に押し寄せてくる感情の名は、狂喜。
目の前に現れる女は、『運命の女神』。
最高神である自分でさえ、敵わないヒト。
そして…、自分の恋人。

第一章 逢瀬 第二話 女

「…どうしたの？」

「生々しいく…」

最高神は、『運命の女神』の名を呟く。

最高神は不謹慎ながらも、その名を呼ぶことを赦されるのは自分だけということに狂喜する。

「何が、あつたの…？」

狂喜が冷める。

思い出したくもないものを思い出してしまう。

あの男のことを。

可愛い我が子に重荷を背負わせることになった原因をつくった者。生はほんの少しだが、慌てた。

「教えて…、貴方の口からききたい…。」

『運命の女神』は呟く。

最高神の名を。

「命くみことく…。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8397z/>

運命の歯車

2012年1月5日17時53分発行